

土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」1年のまとめ

I 学校運営上の課題 → 教職員の時間外勤務の是正課題

・H27岐阜県下で土曜授業が各学校で実施の方向になったが、学校の仕事を増やさない

取組

- ・学校単位ではなく、多治見市教育委員会が一括して土曜学習を取りまとめ実施する
- ・地域の退職教員や地域の施設・団体等多様な地域人材の参画を得て実施
- ・作業の効率化を図るため、ICT化を推進し、ロイロノートによる児童生徒への直接配信を実施

指標

・多治見市小中学校で1か月の超過勤務を行う教員の年平均時間数

成果

R4 平均31時間50分 → R5 平均29時間20分

・土曜学習の実施講座は1回増えて11回実施したが、それにもかかわらず、増加はしていないので、学校への仕事量は増加していないものと推察する。

II 学校と地域の課題

課題

- ・H12をピークに人口減少・少子高齢化となっているので、持続可能な社会の構築が急務
- ・地域の活動に参加する児童生徒が全国平均より少ない

取組

・地域の歴史や産業、多治見ならではの文化にふれる、体験する場を設け、多治見を好きになり、もっとよくしたいという願いをもつ児童生徒を育成

指標

- ①全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の当てはまる・どちらかと言えば当てはまるの合計
- ②土曜学習実施後のアンケートで「多治見がもっとよくなると思うか」と聴収

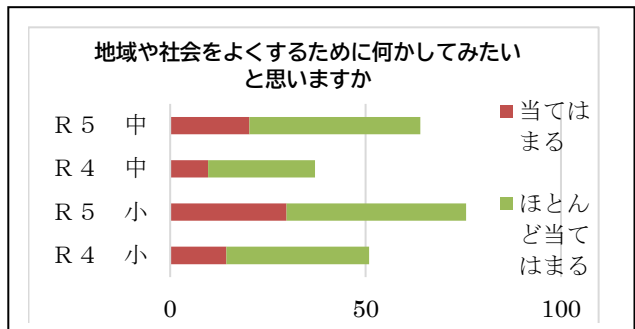
成果

①全国学力・学習状況調査より

R4 44.0% → R5 69.9%

②土曜学習に参加した児童生徒のアンケートより

99.2%が「多治見がもっとよくなるよ」と回答 残り0.8パーセントのうち、「今のままで十分よ」と言う回答もあったことを考慮すると、土曜学習講座に参加したほとんどが多治見についての願いをもつことができた。



III 学校と家庭の課題

課題

- ・社会的・経済的背景にもかかわらず誰もが学ぶことができる環境の実現
- ・コロナ禍での体力の低下によるけがの増加が目立つようになってきたので、学校以外での体を動かす場の設定

取組

- ・多治見市の小中学生ならだれでも無料で受講できる
- ・スポーツを楽しむ講座の開設

指標

・講座「チャレンジスポーツ in 多治見」年2回開設

成果

- ・講座「チャレンジスポーツ in 多治見(前期)」
8月 講師 GIFU SEIRYU HEROES (バスケット)
- ・講座「チャレンジスポーツ in 多治見(後期)」
11月 講師 田中亮明氏(ボクシング)以上、2講座開催
ふれあう会・体験講座を計画し、90名の応募があった。アスリートの生き方にふれ、スポーツを楽しむ機会となった。
※土曜学習にご尽力いただき、ありがとうございました。

令和6年度 土曜学習の重点

背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標	目標の達成度を測る指標
H12をピークに人口減少・少子化となっているので、持続可能な社会の構築が課題である。 しかし、地域と関わり、地域の活動に参加する児童生徒が、全国平均より少ないのが現状である。	R5は、実施後のアンケートに「多治見がもっとよくなるよ」と99.8%が回答。全国学調では「地域をよくするために何かしてみたい」と考える児童生徒は全国平均に近づいたが、具体的に「自分はどうしていくのか」までイメージできない。	①ふるさと多治見について、地域資源を理解し、その魅力を体験を通して地域住民から学ぶ。 ②ふるさと多治見の魅力を継続・発展させるため、現状を知り、課題を明確にする。 ③縦割りの少人数縦割りグループを構成し、中学生ボランティアをリーダーに、退職教員から成る土曜学習サポーターを補助者として温かいつながりをもつ。 ④自分も地域の一員であることを感じ多治見の魅力や課題が「自分事」として感じるようにする。	・多治見に愛着をもち、多治見がよくなることを願い、行動できる人材が増える。	・実施後のアンケート「多治見がもっとよくなるために、自分は何かしてみたいか。」「それは何かですか。」の回答割合